

呉まちなか公共空間デザイン会議（第5回）摘録

- 1 日時 令和7年7月9日（水）14時30分から16時20分まで
- 2 場所 呉市役所7階 758会議室
- 3 概要・骨子

14:30

【新原市長挨拶】

みなさん、こんにちは。呉市長の新原でございます。

本日は、呉まちなか公共空間デザイン会議第5回の会議に、田中座長をはじめ、皆様、貴重な時間を割いてご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

始まる前に呉市役所らしくない音楽が流れて、それから呉市役所らしくないフォントの資料が表示され、呉市が変化していく過程を感じることができ、大変うれしく思っております。

今、呉市は大きく変わろうとしています。

1つは日鉄の跡地に、防衛省の多機能複合防衛拠点が参ります。

呉市といたしましても、早期の整備を要望しておりますので、これから大きくまちが変わっていくと思えます。

それから、呉駅前の再開発もかなり進んできています。

駅前広場については、タクシー乗り場の待機場所や、バスの降り場を阪急ホテル隣の駐車場に移転する工事を始めています。また、令和9年の4月を目処に、バスターミナルや駅前の2階デッキ、そごう跡地の建物が開業できるように進めているところです。

他には、警固屋にある音戸の瀬戸公園に外資系のホテルが開業することになっており、開業に合わせて、公園の再整備を進めて参ります。

幸町にある入船山公園、入船山記念館・美術館、青山クラブのエリアについても、本年1月に有識者会議でとりまとめたエリアデザインを基に、今後、総合的な計画を作ることを予定しております。

交通の分野ですと、クリアラインの4車線化がかなり進んでおり、呉平谷線の二河峡のエリアも上空から変化が見て取れるところまで工事が進んでいます。

今回の議論の対象となっている堺川沿いの中央公園をはじめとする周辺区域の整備をこれらの事業に連動・連携して考えていく必要があると思えます。この事業は、呉のまち全体が変わっていく中の、非常に大きな要素の1つだと思えます。

これまで当会議を4回開催しまして、本当に多くのアイデアをいただきました。昨年9月には、皆様のご意見を取りまとめた形で、呉まちなか公共空間デザイン計画を策定いたしました。

本日は、計画をさらに具体化をしていくために皆様のご意見をお伺いすることになっていきますので、どうぞ思ったことをどんどんおっしゃってください。楽しい呉になっていきますよう皆様のお力を期待しております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

14:40

議事(1)に関する説明は割愛（資料1）

※事前説明時に各委員に説明済み

議事(2)に関して都市計画課及び広島大学から説明（資料3）

議事(3)に関して都市計画課から説明（資料3）

議事(4)に関して土木総務課から説明（資料3）

15:10

【質疑・意見交換】

委員からの主な意見は次のとおり

・中央公園5から8ブロックにおける施設及び機能配置案について

○意見1

蔵本通りを歩いていると公園内が見えにくく、入りづらいと感じることがあるが、実際のところは、園内は非常に過ごしやすく、隠れた良い空間であると思う。

市役所の前は、余所から来た人にとって、最初に目にとまる場所だと思なので、見通しが良くなると単純に人が来園しやすくなる効果があるのではと思う。

○意見2

中央公園8ブロック（以下「8ブロック」という。その他のブロックも同様）は、子ども連れだと、今回の社会実験でされていた遊び道具を貸し出すといった取組があると、ふらっと何気なく公園に行き、しばらく過ごそうと思える居心地の良い場所になるきっかけになるかなと思う。

普段は、大型遊具以外で何をして過ごそうかと考えることがあるので、社会実験時に設置されていた移動式遊具や、小さな子・大きな子向け、それぞれのスペースがあると過ごしやすくなると思う。

それに伴って、パークマネージャーといった公園管理や見守りをしていただける人がいると、すごく安心感がある。イベントを開催する場合も、窓口がわかりやすいので、そういった人がいらっしやると、安心して公園に行ってみようと思える1つのポイントになる。

公園でお腹がすいたとなると、家に帰るか、近くでどこか探すことになるので、子どもも大人も食べることのできるメニューがあるカフェがあると長い時間を過ごしやすい。

小さな子どもをイベントに連れていった時、靴を脱いで過ごせるスペ

ースがあると、雨の日もそこで遊べるので、イベントも開催でき、活動の幅が広がると思う。また、雨天時や猛暑日の日差しを避けることのできる場所としても使えるので、そういった場所があれば良いと思う。

図書館の前（5ブロック）に青空図書館とか、ワークショップに参加された皆さんの素敵な意見があっただけでいいなと思った。8ブロックが子ども向けの場所であるのに対し、図書館前は割と大人向けで、自然や本を楽しんだりしながら、軽食を食べることのできるカフェスペースがあるとより利用しやすくなる。

公園の中に様々な要素があると、今日はこっち、明日はあっちを使ってみようといった具合で人の流れが生まれやすいと思う。

○意見 3

呉市にはアートに触れることのできる場が少ないと感じる。私は小さな子を育てているが、幼少期からアートに触れて育ってほしいと思っている。

実際に自ら芸術などの創作活動をするだけでなく、見て刺激をもらえるアートに関連した場が5ブロックにあってはどうかと感じた。

先ほど、報告のあったとおり、5ブロックは来園者が少ないとのことだが、5ブロックは、比較的駅に近いと思うので、市外の方の興味を引くアートの場を作り、そこから8ブロックに人を流すような状況を作ってはどうか。

他には、空間内の影が少ないと感じる。日に日に暑さが増してきているので、街ゆく皆さんは日傘を持ち歩いているが、子どもと遊ぶ時に日傘があると危ないので、木陰や涼しい場所を作ってはいかがか。また、夏にはアスファルトが高温になるため、背丈の低い子どもや犬などの動物は熱をもらいやすく、どんどん体温が高くなるので、ゴムチップを敷いた場があってもいいのかなと思う。

○意見 4

私は、以前開催されたワークショップに参加し、その際に新たな機能配置案について多くの意見を申し上げたのとワークショップで各グループから出されている提案で十分網羅されていると思うため、本日は公園の活用策を提案させていただく。

公園・河川（まちなか公共空間）が中心市街地のちょうど真ん中であり、一方で中心市街地全体を見ると、東側に大きな商店街があり、西側には図書館・ホールなどの公共施設がある。南側は、大和ミュージアムや青山クラブなどが立地しているエリアであり、まちなか公共空間が街の中心、かつ、クロスポイントになる箇所であることを考えると、川が地形的にまちを分断しているが、分断ではなく、公園と河川を統合することにより、街をつなぐ場、呉市の見本市になり得るのではないかと思

う。

社会実験の中で、人流調査をされた結果、商店街エリアに人が流れていく、もしくは、商店街から公園方面にも来られるという結果が見て取れたので、公園側から商店街に人が流れる、または商店街側から公園に流れる仕掛けとして、商店街側の飲食店が少し滲み出るような形でテラス席などを設け、テイクアウトしたご飯を食べることができるといったことができる。また、そのことを広報することで、多くの利用を促すことも考えられる。

また、文化ホールで催しがあれば、その演目や内容に合わせて、公園でイベントを開催してくれるような人がいれば良いと思う。ホールや図書館で何か催されているのであれば、例えば、近いうちにホールでマジックショーが開催されるようだが、マジックショーに合わせて公園でも手品にまつわるイベントが行われるといったかたちで公共施設での催しが少し外にはみ出し、外で見ることでできる場であったり、もしくは商店街の美味しいものを多くの市民の皆さんに見てもらえるような場になればと思う。そのような利活用を通じて、多くの方に使っていただける場になると良いと思う。

○意見 5

先日、パリに出張に行ったが、運河沿いに多くの人々が滞在していた。そのイメージがまちなか公共空間に合うと感じた。川に向かって色々なことやものがしみ出してくるようになれば良いと思う。

○意見 6

私も川が大事だなと思う。大阪市の道頓堀川は20年以上前は、あまり綺麗でなかったが、先日、久しぶりに訪れると、汚かった川にウッドデッキが設置され、水質が改善し、非常に綺麗になっていた。堺川にも古くからデッキがあるので、人が集まる場所になりうると思う。

現在、文化ホールにすごく注目が集まっていて、7月にDJイベントが開催されるというチラシを拝見し、これまでの既成概念にない使い方をしていくというスタンスが見えたので、イベント・音楽しかり、図書文学しかり、中央公園だけを綺麗にするというよりかは、周りも変わらないといけないと思った。

また、中央地区以外に住んでいる方は中央公園に来るには車を使うことが多いと思う。公園の近くに住んでいれば、再整備後に何か変わったから公園に行こうとなるかもしれないが、遠くに住んでいる大人は公園に行く目的がないとそうはならないと思う。例えば、呉市のあらゆるエリアのものが集まるマルシェのようなものが開催されていると呉市内のことをそこで知ることができ、公園に行く目的になりうると思う。

そのためにも、パークマネージャーを配置することで、まちなか公共

空間周辺で何が行われているかということ、インスタグラム等のSNSを通じて情報発信し続ける機能が必要である。

夜の歩きやすさも重要であると思う。以前、ライトアップイベントをされていたが、その期間中は公園内が非常に歩きやすく、自身の子どもたちが歩くことがすごく楽しかったと言っていた。ライトアップまでとはいかなくても公園内の明るさは、常にキープしておいてもらえたら嬉しい。

○意見 7

最近、孫と公園に行く機会が多く、以前から気になっているのが、中央公園8ブロックで子どもを遊ばせようとする、幅員が狭く、公園周辺の交通量が多いと感じている。子どもと一緒に走ることはできないので、座って子どもが遊んでいるのを見守っているが、目が届く範囲となると、今の公園のまま木が多いので、目が届かなくなることを懸念している。

また、子ども連れの皆さんは日陰を作るため、簡易テントを持ち込まれており、そういった使い方を考えると、遊具と芝生広場が広がる空間が子ども連れには向いていると思う。また、親水性のある遊べるエリアがあり、そこで大人も楽しめることができると良いと思う。

最後に、空間内には建物があるべきだと思う。デザイン計画の未来ビジョンに載っているような少し高さのある建物があり、港まで綺麗に見えるといった場所を作れば良いと思う。

○意見 8

都市再生推進法人として、社会実験や街の森のアトリエ、ライトアップに取り組んでいるが、KURE-PERSの構成員が高齢化している中で、新たなまちづくりプレイヤーの発掘の重要性を感じている。文化ホールのDJイベントといったような多様な使い方をするアイデア・パワーを持ち、自走できるコンテンツ・仕組みが生まれてくれば良いと思う。

そのため、パークマネージャーや、事務局といった受け皿があり、そこで、公園の使い方を丁寧に教えることができれば、より使いやすくなると思う。整備等のハード面より、ソフト面を考えていかなければいけないと思う。

今後の取組に官民連携による整備運営手法の検討とあるが、カフェの運営は、公園の維持管理運営ができるほどの収益を生み出す事業ではない。維持管理や運営が持続できる仕組みの構築が必要であり、その中で若い世代が活躍できるようになれば、自然と求められるハード面も適切な案が出されるのではないかと思う。

○意見 9

ヘルシンキにとある公園がある。ここは園内に道路が何本か通っており、横長の形状で、呉市の中央公園と規模や形状が似ている。ヘルシンキの場合、人が公園を縦に流れており、中央公園の場合は横で流れている点が違うが、写真を撮ってきたので、紹介したい。

この公園は、間口が綺麗であり、中央公園を再整備する際は、道路との接続をかなり考える必要があると感じた。公園周辺は車がたくさん通行し、幹線道路に一部囲まれているといった形態だが、園内に入ると花が綺麗に咲いており、散歩しようと思える場所であった。

園内には舞台兼レストランといった建物が一段高いところに建設されている。ここでは数百人規模の学会を開催することがあり、学会を開催すると懇親会が開かれるが、仮にこういった場所が中央公園にあれば、同じような会が開催されるだろうと思って見ていた。コンベンションの機能の一部として、普段使いができるスペースを設けておくことは有効なのかもしれない。

この公園は、港を臨む景色が開けているという点が非常に良く、キックボードや他のモビリティを停めることができる場所が確保されている。また、他の位置から公園を見ると、ベンチでくつろぐ女性がいたことから、くつろぎ空間として使われており、こういった空間整備もありうらと思う。

他には、ビエンナーレ（2年に1度開催される国際的な美術展覧会や芸術祭）が開催されており、園内に入るといくつ木製のアートが解説付きで並んでいた。ビエンナーレのような表現の場として、公園内でチャレンジできて、かつ、イベントを一等地で開催すると、そういったイメージが市民に定着してくる。例えば、香川の直島は昔からアートの島であったわけではなく、継続することにより、現在のイメージが定着した。ある意味、呉市全体のイメージ付けで、活躍したい若者の場を提供するといった使い方はすごく良いと思う。

あと、横断歩道の配置が特徴的であった。通常、横断歩道は交差点に配置されているが、園内の横を抜ける通りがあり、その通り上にもう1つ横断歩道がある。おそらく、日本でこういった整備をすると警察から止めるよう言われる気がするが、この公園はそもそも車が流れながら、歩行者と一体的になるような工夫を、横断歩道を含めて行っている。

また、公園内にはテラス席の設けられたレストランがある。公園内の飲食施設整備は非常に重要だと思うが、カフェだとどうしてもお金が回らないとあって、そうすると、あえて付加価値の高い飲食施設、場合によってはケータリングをやるのか、或いはチャレンジスペース的にやるのかといったように使い方は色々あると思う。

あとは、堺川東側地域との接続性を意識した中で、公園の在り方を「くつろぎ」、「交わり」といった色々なキーワードで表現することがゾーニングに影響するのだろうなと感じたところである。

○意見 10

子どもが小さい時に大型遊具がある公園によく連れていったが、その時に度々、大人の居場所に困るなと感じていた。単にベンチやパーゴラがあればいいというわけではなくて暑さや寒さ、ほこりっぽさを解消し、もう少しゆっくりできるスペースが欲しいと思うことが多かった。例えば、カフェやテラス席などの、子どもが常に見える範囲にそういった施設があれば良いと思う。

現在は、両親が高齢になり、同じようにどこかに連れていくとなると安全安心な場所という点が非常に重要であるため、公園になるのだが、そこで大きな問題となるのが、段差であるとか、ちょっとした凹凸につまずいてこけてしまうことがあるため、徹底的にバリアをなくすということが必要であると思っている。

これまでも皆さんから意見があったとおり、川を活かすということは重要であると思う。このエリアはウォーターフロントであるため、川を見て、音を聞いて、また匂いを嗅ぎながら過ごすことができるということは非常に大きい強みであると思っている。

それに加えて、ワークショップで提案のあったとおり、子どもが膝下ほどの浅瀬で遊べる、呉ポートピアパークにあるような池があれば川との関係性をすごく感じることができると思う。

こういった空間の整備をすると、一時的に人がたくさん訪れると思うが、賑わいを継続し、リピーターを増やすということが非常に大事ななと思う。そのため、ここに来れば、次はこんなイベントがある、こんな新しいことができるといった、新たな発信をされている状況があれば、次に繋がると思う。また、昨今はSNSとかで、特に若い人を中心に、発信をしていただけるので、いわゆる映える場所というものを戦略的に作っていくことも、必要であると思う。

呉市には特色のある産業がある。例えば鉄鋼業であったり、木材、あるいは倉橋島の石材などがあるため、そういったものを使った活用施設もあれば、空間に深みが出ると思う。

○意見 11

アンケート調査によると、ベンチ・テーブルが一番必要との結果が出た。また、今回の社会実験においても、ベンチ・テーブルが多くの人園者に使われたと思う。

ワークショップでは3つのチームの方から、橋の通行止めを提案された。社会実験を通じて、楓橋の通行止めに反対意見があったことに対し、

弥生橋の通行止めに対する意見はなかった。

中央公園は奥行きが狭い公園であるということを考慮すると、中央公園 8ブロック・7ブロック、楓橋のウッドデッキ部分を含めて一体的な再整備を考えることができるのではないかと思う。花見橋については、日常的な通行止めの制限に関わらず、イベント時には公園と一体的に使うことができるように整備をする方法もあるのかなと思う。

もう1つ、中通商店街側の川のデッキ部分は、今回の社会実験であまり時間をかけて利活用しなかったが、来園者から見ると、実験スペースがあるのか判りづらいのではないかと感じた。橋からの取り付けが見えにくい部分があり、道路からは駐車場の裏側になるので見えないのかもしれないので、視認性を高めることで使い勝手がよくなると思う。

○意見 1 2

先程の補足になるが、最近、子育てのために東京から引っ越して呉に来られ、週末にいつも子どもを遊ばせている同僚がいたので、中央公園について話を聞いてみたところ、呉に住んでいるが、中央公園に1回程しか行ったことがないと言っていた。遠方の公園にわざわざ行っているようで、理由を聞くと、8ブロックの大型遊具は、比較的に大きい子向けになっていて、新しく来た人たちにとっては近寄りがたい印象を持たれているようだ。

大型遊具とは別で小さい子向けのエリア、砂場、じゃぶじゃぶ池、遊具の貸出しといった遊び方を自由に決めることのできる場所があれば子どもたちが自由に遊び、滞在してくれると思う。

去年、社会実験をされていたと伺ったが、周囲の方に聞くと、実験をやっていること自体を知らなかったと言われることが多かったので、広報が大事であると思う。映える空間や施設があると、来園者が勝手に宣伝してくれるようになり、オープンな空間になったらいいのかなと思った。

○意見 1 3

地域資源である川が見えるということは非常に豊かで良いことである。だから、お金かけて整備することより、今あるものを利用して再整備することが重要である。今の立派な公園と川の両方があるという優れたロケーションを活かす方向で、例えば駐車場部分を整備して、空きスペースを作ることができれば、堺川沿いのお店の人が客席に使えるとかすごく魅力的な使い方が、ちょっとした工夫でできるのではないかと思う。

○意見 1 4

中央公園を横切っている道路について、平日と休日で運用の仕方を変えることも1つの案だと思う。

休日は、車の通行を完全にクローズにし、歩行者優先の空間にする。このような運用をしている地域は幾つか事例がある。ただし、カラーコーンなどを設置するのであれば、地域にお願いするかといった点はついてまわるがそういった案もあると思う。

そこから言い換えると、公園の使い方を休日の顔と平日の顔で分けて考えることも良いのではと思った。

○意見 15

まず、ゾーンコンセプトとして、社会実験時に通行止めにしたエリアの道路をなくし、子どもが安心して遊べるエリアとして統一する。各施設や常設のカフェは、公園中央付近に配置し、観光案内も兼ねることで、まちの賑わい創出にもつなげられる。花壇を市民や企業団体が借りて整備する制度を活用することで、市民参加ができる公園の意識づけにつなげる。

8ブロックの提案として、自由に活用できる広場、屋根や木陰が多めのピクニック広場、イベントスペース等のエリアとし、花壇は市民やグループが管理できる制度を導入する。

7ブロックの提案として、子どもの遊び場、川辺を意識した遊具、呉のイメージに合ったインクルーシブ遊具を設置する。

6ブロックの提案として、公園全体の中心の近いエリアにハブ施設を設置し、有人管理でトイレの安全確保を行う。観光案内所の設置でまちの賑わいにも貢献できる。

5ブロックの提案として、図書館と連動した取り組みを行う。春や秋には絵本の読み聞かせを屋外でも開催できるように、屋根つきスペースを設置し、本を読むことのできる場などのくつろげる場所を多めにする。

それから、再整備前の既存の施設の活用について、大掛かりな施設整備をする前段階において、今ある8ブロック内のスペースを貸しスペース、レンタルカフェスペースとして活用してみてもどうか。市が主体のレンタルスペースとすることで、管理者やカフェオーナーを固定化しない今の状態でも、暫定的に活用ができるのではないか。

○意見 16

各ブロックにおける共通提案の1つ目として、日陰づくりのため、木陰や屋根で涼しく快適に過ごせる暑さ対策が必要である。

2つ目として、川の生き物を観察し、生き物との触れ合いを体験できる空間として、公園の一部に川の水を引き込んで、池として遊べる空間があるとよい。河口干潟なのでカニなどを子どもたちが触ったりできる空間になる。

3つ目として、簡易テントやレジャーシートを広げてくつろげる空間が必要である。

4つ目として、駅から地下街や、アーケードで公園まで移動できる空間があれば、日差しや雨から守られるので歩きたくなる空間になる。

・今後の取組の全体の内容について

○委員 A

令和8年度に一部先行整備を行い、ベンチ・テーブルなどの設置を想定とあるが、これはとりあえず置いてみるということか。

レンガ塗装の凹凸の激しい箇所が多いため、つまずきやすく、ベビーカーが通りづらいので、あちらを直すことが先決だと思うが、先行整備は、とりあえずやってみてというスタンスなのか、それとも設置箇所をはっきり決めるのかどちらか。

○神垣土木総務課長

これは場所をきっちりと決めるものではなく、とりあえず置いてみて、色々なご意見をいただきながら整備を行っていくことを考えている。

○委員 A

では、ベンチの設置場所は変わる可能性があるということか。

○神垣土木総務課長

そのとおりである。

○委員 B

今後、スケジュールとしては基本デザインを策定、公園を一部先行的に整備していきながら、併せて官民連携運営手法の検討に入られるということだが、官民連携を考える中で、どこまでを官が担い、どこまで民間が担うかという点が重要である。どうしてもPark-PFIだと、民間に頼ってしまいがちになる。

一方、民間に頼りきった形の管理で自走するのは経営的に難しいので、官がしっかり支えながら、民間が効率的に運営していくことで、官民連携して公園のより大きな価値創出を目指していく局面に今後なっていくと思っている。

昨年度は、1ヶ月間じっくりとマンパワーをかけて社会実験を行われた。その上で、公園が使われることは非常に良いことであると市民の皆さんが認識されたと思うが、社会実験の期間中は「ハレの日」、波の一番高いところであって、波の一番下の部分である「ケの日」、平日をどのようにしていくか、波をいかに平準化していくかが重要であると思う。

仮に、再度、今年度同様に呉市が中心となってマンパワーをかけて社会実験を1ヶ月・1年通してやるとなると、それは非常に大変だと思う。

継続性を考えると、今後は、市民の皆さんや、地域団体の方たちを巻き込んである程度お任せし、呉市は少し力を落としつつ、ある程度クオリティを維持できる形で実験を行いながら、実際に官民連携体制の中で現実的に持続可能な運営を目指していくのがいいのかなと感じた。

○委員C

諫早市の商店街の取組事例で、空き家店舗が多かった商店街で、1人の商店主が住民・高校生などを巻き込み、街で行われる様々な行事・イベントを商店街の中で開催するように働きかけ、それを通じて商店街を活性化させた事例がある。

まちなか公共空間の取組みを進めるにあたって、施設整備をして数年は人が集まり、賑わいが生まれると思うが、数年経てば賑わいが失われてくるのではないかと危惧している。

まちなか公共空間と商店街の双方でイベントをしっかりと実施するなど、人が常に集まる状況を生み出すことが重要である。収益がなければまちなか公共空間や商店街でのサービスも成り立たない。

呉市には、まちを良くしようという情熱を持った方が多くいると感じているが、何かを始めようとするとき必ず資金が必要となる。

今後、商店街を含め、まちなか公共空間の持続的な賑わいを維持できるよう、イベント等を実施する人を支援していく仕組みを作ることが必要である。

16:15

【閉会挨拶（松川土木部長）】

あらためまして、部長の松川でございます。

本日はお忙しいところ、また暑い中、第5回のまちなか公共空間デザイン会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございました。また、長時間にわたり、ご意見をいただき、ありがとうございました。

市長から話がありましたとおり、呉市は現在、呉駅周辺地域総合開発、幸町地区総合整備、リノベーションまちづくりなど様々な事業に取り組んでおります。

これらのまちづくりを結び、その価値をもっと高める場としてまちなか公共空間をウォークアブルな空間に変えていきたいと考えております。

皆様に様々なご提案をいただきながら策定した呉まちなか公共空間デザイン計画、また、本日いただいたご意見、昨年度実施しました社会実験・ワークショップの結果を踏まえて、今年度中に再整備のイメージとなる基本デザインを策定していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

16:20

【閉会】